



阮社玄甫波板

六













荒 西ふるやどそあむ物あや 芭蕉  
 りのちをどてのはるる花うさつしゆくはすゆらあり  
 あり。あやしうきさうまひもさるる花すし  
 ちりりこのやまもあしあまもあつたるるありやが  
 トリモナホサズトイフ心ナル一挿頭物とあまこコレハ  
 ノやどそイトヨクカレタリ。俗語ノやぐまニハアラザル  
 ナリは物ばてしをすづて片るるにつまらるる  
 るやんらのあまあまのけりよこあまらるるつらるる  
 るやんらのあまあまのけりよこあまらるるつらるる

炭 西米を煎られていろき 畠地 刺牛  
 乃くさう拾いあつたて 粟山あや 樞密  
 なるもあまの尊あまの年あくれ 智内  
 油をすくさうあまの尊あまの年あくれ 芭蕉

荒 月も心あつて酒のむしりや 同  
 まる御よめこれ通す車や 素秋  
 七草をこくきたぐりてほのめ 後似  
 なるふくして被よすぐる 秋の露 一井  
 夕るや裸ぶ起て花するこ 嵐蘭  
 五六十海光費くそ殺一ツ 之道  
 門をさうりて船とさけい 内羽  
 きつと来て帰るをさうり 胡及  
 梅咲く湯あめのかづれあしり 刺牛  
 つれを来く子ほろをさうり 一井  
 浪花は筆をこくさうりて年の暮る 呂九  
 よいこの月をかさうりて 孫 大工 信



猿 員 考 猿 員 宥 猿 宥 猿 曰

魚店や甚うらあげて多々の月  
ささぐれは家より捨てあつたけり  
甲の畔は早苗抱き投ぐくを  
まらあぐる黒雲弦のくちかき  
白雲のたむけの言まのぼれ  
こし上へカヘルてナリ。のほまきして、江戸のたむけ  
あゝぐれは舟船のつらるる考  
コレモづるトイフ所くハス鳥ニオキタルて  
ナリ  
まのりなはなめてくる鍾机  
せいの畑茄子をみてさくす可  
は年子ありてあつたもあつて  
うきあまかゝれて猫のやちあ

果東 凡兆 弘屋 史邦 七也 行号 山秀 旦葉 一井 吉東

曰 曰 宥 曰 曰 宥 曰 曰 曰 曰

襟をよそりつる冬月  
片隅に虫葉のくえてさる月  
人の家を買つてこゝへ年忘  
葉のくろ墨きをさげて賣買  
其よりして窓よりくぬの作  
漲よかきあみせてる橋  
月よりして船の内裏の司め  
まて来る海月のつ子月影  
やうくと雨ありやまて秋の風  
を散る竹まき靴のやまき  
朝露のよまねて涼しい土  
砂のよまの癒してまき

杉風 乙卯 芭蕉 孤屋 曰 鼠 際 冬文 利平 西堂 芭蕉 甲東



猿 員 猿 曰 猿 荒 繞 曰 荒 繞 曰 荒 繞 曰 繞 曰 繞

物の口度もこのまゝてゝ乱れとて  
 月の宿書を引ちう寸中に寝  
 ろの布戸や漬のさされてるの  
 常一齋子たづねてゐるもの  
 ちりつてく袖道思ふ原の馬  
 子知のうちうて田子おっ娘  
 とりつて花をちり柳  
 天鶴の毛の袂布さかへ多の  
 りふして寝のかつぬあや  
 袖すしてねの糸ゆるるるの  
 あ子袖やあまつまうて佛  
 よきに寝て純子のねまの  
 念

美並 城人 毛角 子那 史邦 杖立 昌隆 惟然 荻文 梅舌 乙羽 志直

荒 繞 曰 荒 繞 曰 荒 繞 曰 荒 繞 曰 荒 繞 曰

梅舌とてりあうるを念  
 言のまゝりふれ里ハ一寐  
 只のうもあつてはるる  
 上筆をいよはくはく  
 だるされて又新部なるま  
 明らうとてぬ打をた  
 箱くくくして舞節  
 控れてくわむ力舞のた  
 〇てれつとていよた

梅舌 巳匱 我眉 狐尾 野坡 源色 野坡 羽豆

集

山をこれ客耕のふのま  
 ふの句 豊のりたやうには  
 ず。知づつとつてい  
 控らるての字あり

草蕉



集

きよきりん草子香花て時鳥

芭蕉

曰

鏡羊や花虫集りて夢心

曰

曰

時鳥や母れ神徳に明きて

曰

これゝのての字ハ、よくくろくろんは徳のたまはるる  
ちか利

〇てそりりあよ、すむてをにほるてをあり、濁る  
を倒みえるべ、すむて、かうけりてを又かうく  
ありと、ごびもみのもれ、うきり、つぎ  
ゆきも、張ふ詞あり、つ、とす、の、思  
初や、かの蟬丸が、す、故撰集より、わられ  
は、と、あ、張、定、う、わ、つ、り、れ、を、と、あ、  
ま、し、ひ、も、た、う、は、は、は、似、る、詞、あ、れ、を、あ、り

窟

ありてをやすし、ぐれ、軒

神波

猿

押合を、藤を、ま、こ、う、う、枕

芭蕉

曰

草一庭よ、あ、づ、く、ぬ、て、ハ、お、破、り

曰

瓢

こ、と、ぐ、れ、を、こ、ぬ、あ、げ

歌道

員

何事か、を、を、り、合、い、て、お、笑、い

嵐涼

定

雑詠み、も、ま、く、斬、り、う、々

野坡

これゝのての字ハ、よくくろくろんは徳のたまはるる  
曰 ねりありあてを多き、精進る、曾良

これぞ、て、これぞ、あ、ご、い、な、の、ん、あ、り、と、く、る、  
ほ、る、て、を、の、奇、よ、あ、い、袖、う、う、て、と、あ、て、を、  
や、ご、ぬ、ご、ぬ、す、ご、ご、ご、あ、ご、ご、あ、り、これぞ、夕、バ  
と、い、あ、ぬ、ご、の、ん、あ、り、







さるごとくお供するは

猿

邦のこれ帰すまふのまを

芭蕉

荒

山あいの花を名づるは

心苗

曰

くまの寝よお陰さうり

二水

曰

らりるまをうつむさ

李花

統

虫子のうのりな似

圃角

瓢

うすやうと母と傳

正秀

集

誰やうが汝は似

芭蕉

宍

さくまでハニ階

桃溪

員

やいあめううど

約言

考

見つけうう九

荷弓

猿

海堂のむを満

魯船

曰

考南よやう

えん心

統

浪柳もあう

里圃

宍

秋のそをの

耳圃

精

尾取のり

芭蕉

細佳記

つぎまを

芭蕉

記

ちがふ

芭蕉

記

つぎまを

芭蕉

記

つぎまを

芭蕉

記

つぎまを

芭蕉

記

つぎまを

芭蕉

記

つぎまを

芭蕉







猿員猿瓢猿統猿炭猿

おのいぢる死ごもいッあよ  
さめぐよきちくしる宣福集  
ほつねる去年の霜おのてを  
吾理よすくあつる猿もすくす  
ふいさの山さあしる橋や  
無つては持もつけけるさき  
そくくあつる聲たほそぐ  
極むねの腫る足はあつて  
里への崎中くくる田螺の  
職への惟子着る夕涼  
雪の秋吹きまがくる後丹  
七年やこのねねる人ごころ

史邦 荷弓 凡兆 玲碩 芭蕉 舟泉 孤屋 嵐権 土芳 孤屋 羽紅

炭統猿員統日荒日日日日

神送せしめるる石の土大根  
寺のいしける山際れ春  
蛸牛くらくぶせる橋のな  
ころくともゆる木保の系枕  
おのや手はいろげる栗の刺  
餅搗やあがりける鶏のや  
橙や日よがれるまもま  
石釣て茶をる梅のくんり  
つれりか<sup>梅本</sup>あつる花枝の  
あつるきいしりまるみの宿  
花の陰深な似るくび  
集れ尻つるげる白尾

酒を 了菓 坂上氏 行号 芭蕉 嵐蘭 園指 玄察 傘下 荷弓 芭蕉 野水



























を予べつてす。これこそあれど、ありありと  
西もどくそ母をすする視あり。これ五千  
音の中、あつて、志家の川之身の、  
とらひひと、いさぎど、りのはる所のより、  
はくからさわのこ。すづて伊織の十言  
を、はく、あつて、いさぎど、りのはる所のこ、  
あつて、あつて、いさぎど、りのはる所のこ、  
この経緯を、あつて、いさぎど、りのはる所のこ、  
ら、いさぎど、りのはる所のこ、いさぎど、りのはる所のこ、  
此、あつて、あつて、いさぎど、りのはる所のこ、  
さ、いさぎど、りのはる所のこ、いさぎど、りのはる所のこ、

志家の川之身を、既佳の、いさぎど、りのはる所のこ、  
方、いさぎど、りのはる所のこ、いさぎど、りのはる所のこ、

- |   |                                  |     |
|---|----------------------------------|-----|
| 荒 | 唐の存ふ、平林、いさぎど、りのはる所のこ、            | 笑、平 |
| 荒 | す、いさぎど、りのはる所のこ、いさぎど、りのはる所のこ、     | 曾良  |
| 荒 | を、いさぎど、りのはる所のこ、いさぎど、りのはる所のこ、     | 野水  |
| 日 | おひ、子の、いさぎど、りのはる所のこ、いさぎど、りのはる所のこ、 | 松下  |
| 日 | 雪、いさぎど、りのはる所のこ、いさぎど、りのはる所のこ、     | 一、女 |
| 日 | 大、粒、を、いさぎど、りのはる所のこ、いさぎど、りのはる所のこ、 | 东、巡 |
| 日 | あ、いさぎど、りのはる所のこ、いさぎど、りのはる所のこ、     | 野、水 |
| 日 | あ、いさぎど、りのはる所のこ、いさぎど、りのはる所のこ、     | 曲、翠 |
| 日 | あ、いさぎど、りのはる所のこ、いさぎど、りのはる所のこ、     | 泥、芥 |







あり。いよや。悠々。の夕と。子。と。何と。か。か  
 詞。に。さ。す。の。申。お。た。つ。る。は。ぬ。る。し  
 ち。の。と。さ。り。の。あ。れ。あ。る。は。ひ。と。つ。り。  
 夕。と。あ。れ。を。り。の。夕。ハ。し。也。と。し。し。め  
 波。子。付。ふ。本。つ。や。ま。り。あ。ま。る。也。さ。れ。を  
 歌。人。ハ。よ。う。な。は。て。夕。を。さ。か。し。麻。匂。ふ。し。と  
 押。の。と。さ。ご。つ。る。は。ぬ。る。ち。の。と。あ。る  
 づ。め。を。と。つ。ら。め。づ。し。中。は。先。見。ら。ん。ナ。ド。ノ。ア。タ。ル  
 所。も。アル。ナ。リ  
 催。務。老。流。の。人。を。し。れ。は。も。を。よ。か。ぬ。さ。し。な  
 ぐ。か。や。の。の。し。と。つ。ら。あ。ま。り。あ。る。ま。づ。は。ち。の  
 ち。ろ。ふ。つ。り。あ。れ。の。ま。し。は。子。能。務。あ。れ。を。と  
 く。あ。り。も。せ。ぬ。あ。れ。の。ひ。て。夕。と。や。を。さ。し。ぬ。さ。し

続

解。ぬ。し。金。か。ら。や。花。の。友

丈夫草

日

冬。よ。ま。ふ。す。く。あ。ふ。あ。し。は。の。鴨

沾圃

日

腰。子。付。し。藤。柳。の。下

柳言

日

子。畦。ふ。第。の。花。を。と。し。を。と。ぬ

支考

荒

麦。時。く。子。舞。の。あ。り。の。成

昌琴

日

よ。の。山。や。形。は。似。合。ひ。の。子

杜若

これ。の。句。つ。づ。ま。も。現。在。の。さ。す。し。ま。と。な。る。句。意  
 有。れ。を。古。の。の。し。を。あ。し。ぬ。し。句。お。よ。ま。さ。く  
 ち。現。在。の。さ。す。の。や。ら。し。し。か。ら。る。と。去。ち。る  
 も。あ。る。づ。し。續。後。養。の。芭。蕉。一。封。つ。け  
 又。第。一。の。丹。の。そ。る。と。つ。あ。り。を。現。在。の。第  
 一。封。の。つ。ま。い。る。を。い。ふ。や。う。な。れ。ど。う。の。む。ふ































炭 日 日 荒 員 春 員 統 崇 統 考

後守鴨の芭 ちどくあり  
食米より雀ちちありみられ  
標の文入仕ちて居根くさる也  
小ひるの以此や〜りあり  
その年強うけ所〜あり  
ねありころぶとむらり啼あり  
澄ちが〜の火ふあ〜り  
ころやぶげよ土〜ぬあり  
枇杷の葉に照〜りし柳あり  
んれささ〜ぬま〜りあり  
ま〜りやよ善徳のつ〜りあり  
〜り〜て〜りや雀ちち

狐屋 支考 野坡 利手 野水 扇格 李凡 亀洞 斜岩 利手 惟和 行良

梳 定 梳 梳 員 統 員 統 員 集 飄

年よ一斗の地よち〜り  
晩の仕事のユます〜りあり  
とゆふれと〜りふし虚木立  
千菊の田を〜りすやちよを人  
山伏住〜り人 ち〜りあり  
之寄致買の行の〜りあり  
泊夜〜りの市録〜りあり  
秋を〜りて藤もち〜りあり  
きび〜りく芋を〜りあり  
ちのれ ち〜りかち〜りあり

去来 袋水 氷固 一鶴鳥 野水 馬莧 舟泉 芭蕉 珠碩

○ちのれ  
ゆのあり

相の糸小〜り〜りあり堀の内

芭蕉



○由父身

山く

これよりもとを装あれど。物ふたあさか  
ちぶするちををち 脚結にしつふふたあり。  
よのありあり。ちぶどの條ふらそくくしる  
おごし。次おくふ何ユクとふふあり。装乃  
時そ。その物乃てふ行らるる。装ふふ。  
脚結の時を。一よりゆく。たよりゆくあど。その  
半はゆくやうある形容。つふあり。これ装  
と脚結とのさびめあり。炭俵ふ利手。一家の  
たのぶれ。おとそとふゆくとつひ。ころそ装  
あり。これ人のみゆゆく。ちぶれを。又猪  
藪ふ万平。一田の畝乃て。いやく。学うこれ

これよりも脚結のぶとそあれども。わするち  
ゆく事。あれを。猪藪あり。これわす  
んそわくべ

葛城ノモトナ

猪 わすく。花の海ゆく。種の影 芭蕉

荒 たのむもあ。いさひ。脚 旅人

炭 部の草は。これゆく。冬や。松原 新炭

集 時鳥。清ゆく。こや。鳥ひと 芭蕉

日 燈び。きや。古。老。ゆく。世。の。光 同

いづきも物を。ころ。く。す。く。そ。の。用。れ。ゆ。く。成  
ころ。あ。し。ころ。あ。し。  
旅 えがす。ころ。あ。し。く。や。時鳥 木前  
かや。ころ。あ。し。く。や。時鳥















ねハヤ

○かひくかひりかむりもろ

集

語詮ヤコウ律文のしるしの

芭蕉

曰

月小若紙つこころの神

曰

○被身

る

これそくひるちるしるるをど  
ふるもさあさす。うれハ装の末とつめ  
のなあり。これをも所ふレルラレルなごころあり  
なり。しるるつりあさるマタレルのあり。

しるるといはるるハハレルのあり。すな  
はちしるるもはるるす。すくわさ  
せんとも思ふ。おふりて自然さ  
るるのあり。しるるつりあさるマ  
タレルのあり。しるるつりあさる  
マタレルのあり。しるるつりあさ  
るマタレルのあり。しるるつりあ  
さるマタレルのあり。しるるつり  
あさるマタレルのあり。しるるつ  
りあさるマタレルのあり。しるる  
つりあさるマタレルのあり。しる  
るつりあさるマタレルのあり。し  
るるつりあさるマタレルのあり。











どもこの例をたしとあるものなり。いふれを  
「ふるを」られる「たのを」と「たたるを」といふ  
例の例なり

宗 むすめはかゝる人よあそびぬ

芭蕉

曰 壁ちをきくひてねせぬ名

曰

曰 のこびりかゝるものせそは

芭蕉

集 おをれよとせせけり海京

芭蕉

これの句をたしとある例なり。いふれを  
「ふるを」られる

むすめはかゝる人よあそびぬ  
例の例なり。いふれを「ふるを」られる

いふれを「ふるを」られる。昔あそびぬとつら  
くるも多かれど。は世をつら守むと  
のこびりかゝるものせそは。いふれを「ふるを」  
られる。サスルなむ。いふれを「ふるを」  
られる。「むすめはかゝる人よあそびぬ」とい  
ふ例の例なり。依經・麻經のうたひめを  
いふれを「ふるを」られる。むすめはかゝる人  
よあそびぬ。いふれを「ふるを」られる。い  
ふれを「ふるを」られる。いふれを「ふるを」  
られる。いふれを「ふるを」られる。いふれを  
「ふるを」られる。いふれを「ふるを」られる。  
いふれを「ふるを」られる。いふれを「ふるを」  
られる。いふれを「ふるを」られる。いふれを  
「ふるを」られる。いふれを「ふるを」られる。



とて紙のふりしつゝむらあつことあらげし  
集 ちをかりしつゝむらあつことあらげし 芭蕉

〇為身

寸 これまじ装あねど。柳結とて川  
くふあり。ゆきふくは日ど。しんを「花の  
うごする」をまをてたあまふこれと。わざな  
するとつふはあへゆどさる取寄なるを  
おのりする寸なりし

集 眉を紙紙ねるげはして紅の花 芭蕉  
曰 花門の花や上戸めちぢせえ 同  
曰 伏見、任口上三津片 つかねふゆの柳た片 ちよせよ 同

猿 とうくくそお花つむむゆまぶ  
荒 二のめもぬらうをせどお花の春 山川  
これくづまも西例はく。早まえを。事しを  
為るといふ詞をとりりて。ゆきと豊な寸情を  
形容する詞とともくし

集 せうせん菫の枝ふるる日を 芭蕉  
続 白雨や中ゆりしそ蝉の声 正秀  
猿 月見せんふしの障の控の廊 去来  
続 昼ねてゆのうと地やむ園の 松凡  
猿 さしゆふ思のそりくる意をて 凡兆  
これくを比る世衣ちのり。ふがをすづりし  
春 約執印を向をこくしてはけ 昌圭







○上吉あき。なす。こふてまをあり。昂如  
の心あり。こづ。ち守。玉もあす。あきよ  
めり。これぞ。如とあす。とを別。あき。上  
吉も。如も。つら。ひ。り。あ。別。古歌  
脚結ふら。く。り。

○八隊

○美隊

み。これぞ。なす。こふ。あ。管。あ。こ  
都。き。と。あ。あ。こ。あ。り。も。こ。こ。こ  
志。こ。こ。あ。こ。こ。伊。結。ふ。か。よ。こ。

こ。こ。初。あり。伊。結。ふ。こ。よ。を。守。あ。こ。結。こ  
の。廿。こ。と。あ。初。ふ。あ。こ。こ。こ。こ。あ。り。  
比。例。の。六。あ。こ。初。と。伊。結。物。語。ふ。こ。こ。こ。  
こ。せ。よ。と。よ。あ。こ。上。吉。あ。か。く。つ。こ。こ。こ。  
あ。こ。こ。こ。の。あ。こ。こ。あ。こ。こ。こ。こ。こ。こ。こ。  
る。伊。結。ふ。こ。こ。の。こ。結。子。ガ。ル。と。つ。ふ  
ふ。あ。り。そ。れ。が。脚。結。と。あ。り。こ。結。こ。の  
廿。二。の。ん。こ。此。又。こ。と。つ。ら。ひ。あ。り。こ。も。也。こ。あ  
結。こ。の。廿。二。と。あ。初。ニ。ヨ。ツ。テ。と。つ。こ。初。は  
あ。こ。あ。れ。ど。こ。れ。を。あ。こ。こ。理。を。あ。こ。こ。こ。  
初。あり。こ。れ。を。こ。こ。の。こ。こ。の。あ。こ。こ。あ  
用。ら。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。



















ゆきとちるとなしていふわがわいふなひあは  
れをなるといふやふ異のちのう。能  
ひとつりのふ地ぢゆるん能げとさふこ  
濁言ノ義前ニイフガ  
ゴトシ  
例集中ふみとす

○加之隊

かく、れを能言ふタガヨイハサテハテソテ  
ハアルマイカヤ、ジヤハサテなぶとふるあり。  
おとろの理証おとせんとせばる死  
なり。好世をこれ能強ぶ初よりありな  
るの理証思するんより轉ぐ誤れ  
るおとなり。西行よ人の「也あう」たうど

古のわいともんるべく。又好世のくともえ  
みまぶ。これをももも。うりりつる  
初ちふる事、ちるぶ

荒 千觀が馬鞍かやう一羊のれ 真南

初ぶ初とあるも。早きんを能言あまぶ  
そよよとあるんあり人をつまふまにれ。能  
言もさなるものさむりをもたを中あり  
有國口。この序よ大人のここれつるなり。  
能言をよりと能言のまをいあるもの  
あるまを。予よりハ自在あるがど。さ  
るとさや。予よめく能言をいそ  
すぐさあるれも。よと予といふ荒











並の字のれんきより一事のうらなふ今一事  
のさしあをさるせらるる事ことこれより  
あさすまじい理をいひのさす事こと  
ありしとんづき 集中例あり

○母乃隊

この 物なるおれハいふ及  
をふこと 新結新ふしりなる事もの  
あれ 昔ものさるれよりかきあぐるもの  
紙のさめくさるの物あり 何さるもの  
つるさるあり オカシイ物ジヤ イラヌ物ジ  
ヤるどつふくれぬ 道理十モノワケナイ

理屈十モノ 十ガヒナイ ちどつふ供語  
こらさるるあり

荒 報ぐりさるの子はさるふふの 昔者  
集 さいごいれよりぬえのやあまの物 芭蕉

○ハ多隊

この 詞の中まへよつるもつる詞に  
て ころの上申よつる 紙 揮頭とす ころを  
くさる 揮頭 抄 脚結みふとさるり  
やれどいづきも ちまへとさるり  
まのさるぶかり ちまへよ ちまへふ  
ねらにさる ちまへのさるけさる











つり・葉の葉のちりちりも多くとよむれ  
ワが國の中葉の宛あるを也・せれを世がて  
も・羅の字をいふはあはよほどをさし  
こ・しとグをいふはあはよほどをさし  
被勝のんちあり・いふはあはよほどをさし  
ちりちりちりちりちりちりちりちりちり  
りちりちりちりちりちりちりちりちりちり  
る・ちりちりちりちりちりちりちりちりちり  
よめる・不被勝のちりちり・ちりちりちり  
ちりちりちりちりちりちりちりちりちり  
ちりちりちりちりちりちりちりちりちり  
めさる・ちりちりちりちりちりちりちりちりちり

いづこのつりちり・陰ニツレモ初ニイヘル方ハ容ナリ  
ギフヌリナガラナホ心ニツレタル方が主ナリコレカ  
ウルタヨリニイフナリ・ちりちりちりちりちりちりちり  
小不勝とわれちりちりちりちりちりちりちり  
みちす

○かぬとがくもあはのちのれよちりちりちり  
ちりちりちりちりちりちりちりちりちりちり  
ちりちりちりちりちりちりちりちりちりちり  
初・神代葉ふ思兼神とふ神あ  
り・世神と今目新なるの葉の根と根を  
んちす知るとあはのちちりちりちりちりちり  
るのち「辰が子」坊が子「むこが子」ちりちり  
ふもはるちりちりちりちりちりちりちりちり







本宗三老女より傳  
る

安政二年の事

周水





